

## 「流行」二題

関西EAC08年度総会にて会長を仰せつかり、早2年になろうとしております。右往左往しながらも会員各位の本会活動への熱意やOB会の皆様のご指導を得て、リーマンショックとその後が続くいっこうに実感できない「緩やかな景気回復??」の中でも本会はその盛況に陰りをみせない活動を継続してまいることができました。さてさて、ここまで歩み来た自分を振り返るとこの八月で60歳を向かえ、来年三月にはめでたくサラリーマン定年と、あっという間に、皆様方の聖域に足を踏み入れる資格を得るところまでさしかかってまいったようです。その感慨や如何に?という話はさておいて、今回おあたえいただいたテーマ「流行」について、どうでもいい話をふたつほどさせていただきます。

### 1. iPad

アップルコンピュータといえば20年ほど前は、憧れのパソコンでこれを手にしたときの狂喜を思い出しますが、その後、栄枯盛衰の大激流に翻弄されるも、iPod, iPhoneのヒットで今や往年以上の輝きを放っております。

現在、こうした携帯電子商品類は、単なる機器商売でなくコンテンツビジネス・ネットワークサービスビジネスと連動したビジネスモデルとして世界を席卷し、若者文化の象徴的な「流行商品」となっているようです。iPod, iPhoneでは遅れをとった小生も次なるiPadでは、ガキ共に一泡吹かせてくれようと、なんとか8月に入手しました。ところが、手にして一泡吹いてしまったのは、当の本人。箱は本体と対して変わらないコンパクトさ、まず不安になりましたが案の定、本体とパソコン接続ケーブル以外にあるのは、絵葉書のような1枚の立ち上げ要領。すべては自前のインターネット接続パソコンにつないでそこから必要なモジュールをダウンロードし、その上でさらにネットワーク利用手続きして、ようやく初期利用可能な状況にできるという代物でした。

手にしてすぐに世界名作100選の電子書物が読めると踏んでいたのは浅はかな幻想でした。今、iPadは若手社員に、泣く泣く譲り、喜ばれています。

ここでの教訓は、次のようなことです。まず、なんの素地なく「流行」に、いきなり飛び乗るのは振り落とされてケガするリスク大ということ。iPod, iPhone使い慣れたユーザなら、違和感なくiPadに入れるらしく、流行とは、文字通り「時代の関心の流れに少しずつ継続的に乗りながら生活の道行きを豊かにしていく」ものとわきまえるべし、ということのようです。

### 2. 私の中の流行

iPadの話の教訓、その二は、「流行に乗ろう」とか「ガキ共に合わせよう」とかいう、その根性が、既に下劣で他力本願であり、その結果は当然、期待はずれの惨めなモノになりやすい、ということです。「流行に関心・無関心」というのは本来、その人の価値観によるものであり、価値観からくる時点・時点での好奇の対象とそれへの取り組みが、その人の人生の中での「流行」の歴史といえると考えます。

お蔭様で、60歳まで長らえてまいりましたが、当然、その中でモノゴトの価値観・モノの見方が創出・変遷してきたはずであり、その折々の熱い思い出となった対象が自分史の中での「流行」であったのではないのでしょうか。

還暦とは、うまくいったもので、若いときの流行が今の自分の流行として、再び巡ってきております。自分が主人公でプレイヤーとなるテニス・山登りに今、燃えており、さらに女房との出会いとなった絵描きにも再チャレンジしたい気持ちが沸々としております。自分の中の流行を求めて「ヤングフォーエバー」という心境です。



還暦祝いでバースデーケーキ形の帽子を被らされた筆者